

現行の車いす用スロープは、N700Sでは不具合発生! 車いすご利用のお客様の安全性が危惧される!

現在、新幹線ホームで使用している車いす用スロープは、N700S（J編成）使用時に不具合が発生し、車いすご利用のお客様の安全性が危惧される事態にあります。

新幹線各駅のホームと新幹線車両に段差があるため、車いすご利用のお客様が乗降する際にスロープを使用しています。しかし、現行のスロープは、N700S（デッキ部分）と接する部分のフックの掛かりが浅いため、車いすご利用のお客様が乗降する際にスロープがズれて外れる事象が発生しています。担当者は車いすのお客様の安全を確保するために、手や足でスロープがズれないように押さえて対応しています。

本社・関西支社にスロープの不具合解消を求める! 本社・関西支社は「安全上の問題はない」と不誠実で無責任な回答!

本部と地本は、本社と関西支社に対して、早急にスロープの不具合を解消することを申し入れました。しかし、本社と関西支社は、「安全上の問題はない」と不誠実で無責任な回答を行い、何ら対策を講じることはしていません。

組合「N700S使用時にスロープと車体の接する部分のフックの掛かりが浅いため、スロープがズれる事象が発生している。早急にスロープの不具合を解消すること」

会社「N700Sにスロープを設置した際にフックの掛かりが浅くなることは承知しているが、正しく設置することで安全上の問題はないと認識している。フックによる保持は補助的である。スロープにズレや浮きがないことをしっかり確認して使用されたい」

組合「しっかりと確認していても、乗車する際に車いすのステップ（足を乗せる部分）がスロープに接触してズれることがある」

会社「フックの掛かりが浅い場合はしっかりと確認してほしい」

組合「担当者が不具合があるとやっている。安全上の問題はある」

会社「安全上の問題はない」

担当者だけに責任を押し付けずに早急に不具合を解消せよ!

会社は、N700S使用時にスロープに不具合が発生しているのを承知しています。しかし、不具合の解消については、「安全上の問題はない」との認識で何ら対策を講じようとしません。会社は、担当者だけに責任を押し付け、担当者の安全確保のための努力もまったく認めようとしません。

また、会社は、お客様から負担を得てバリアフリー化を進める制度（鉄道駅バリアフリー料金制度）を活用しています。ホームの可動柵の設置以外にも、ホームと車両の段差・隙間の解消（スロープ含む）が求められています。

会社は、車いすご利用のお客様の安全性が危惧される事態に対して、早急にスロープの不具合を解消しなければなりません。